# 第3回上下水道事業審議会　資料（概要版）

令和8年8月26日 14:00　南51会議室

## 1　前回までの振り返り（必要改定率について）（P3）

〇経営戦略期間（R9～R18）における財源不足60億円／年を補うには、
約70%の料金改定が必要
〇負担緩和策及び料金算定期間により、必要改定率を40.2%に軽減

**負担緩和策**

①投資計画の再精査によるR9～R18で事業費総額50億円の削減
②企業債の追加発行（5億円／年）

**料金算定期間**

・将来見通しの不確実性を踏まえ、
料金算定期間を10年　→　4年に設定（R9～R12を対象）
※料金算定期間に合わせ、中長期の経営計画を4年ごとに見直す想定

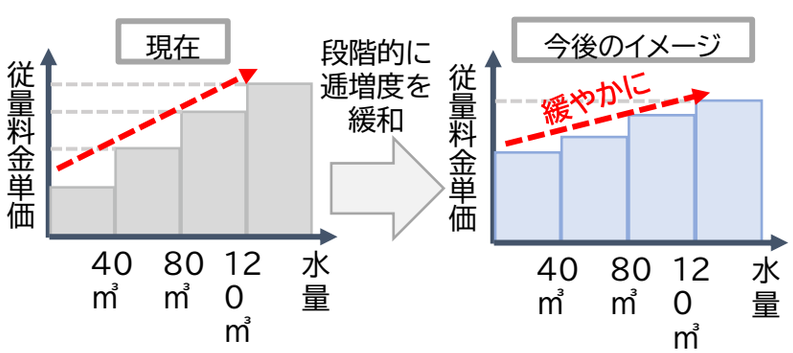
〇一般会計からの繰入金について、投資財源不足に対して15億円増額
⇒以上の検討によって、必要改定率を22.3%に軽減
※なお、R13には18.1%の改定（累積改定率44.4%）の見込み

## 2　逓増制について（P9）

〇逓増制のあり方（日本水道協会「水道料金改定業務の手引き」抜粋）
・従量料金については、1㎥当たりの単価は水使用の多寡に関わらず均一料金制

今までの逓増制についての考え方
・水道施設の拡張期において、水道普及促進や大量使用者の水使用の抑制のため、逓増制が導入されてきた。

**今後の逓増制についての考え方**
・負担の公平性・経営の安定性を図るため、逓増度の緩和を進めていく。
・現行の逓増型料金体系からの変更は、小口使用者の負担を増すことにも
なるため、逓増度は少しづつ緩めていく。



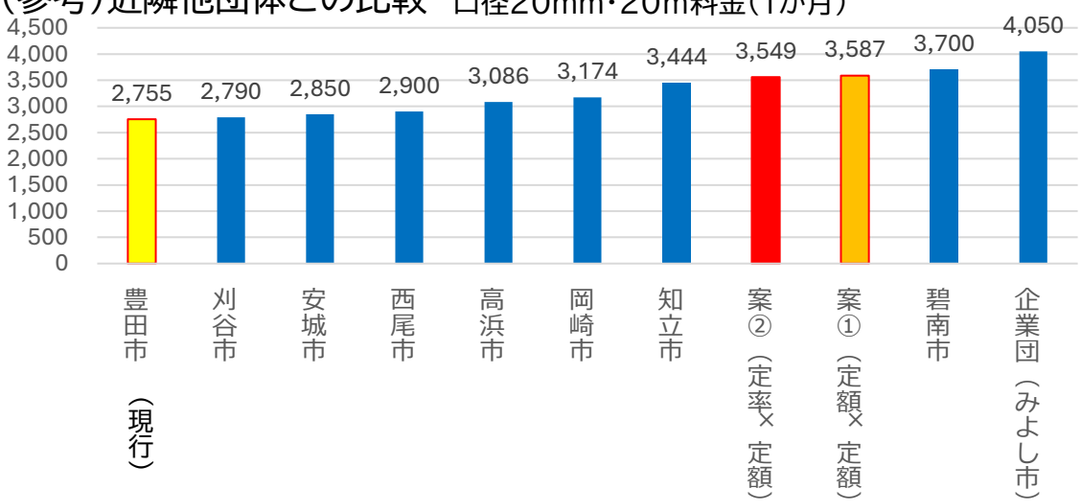

## 3　料金体系表の検討について（P15～）

●料金体系の比較検討

| | |
|---|---|
| 案①<br>基本料金:定額<br>従量料金:定額 | 基本料金:全口径一律+332円<br>従量料金:全水量区画+25円<br>【特徴】<br>低い料金区分ほど改定による負担が大、逓増度は緩和 |
| 案②<br>基本料金:定率<br>従量料金:定額<br>（事務局案） | 基本料金:全口径一律+28.4%<br>従量料金:全水量区画+25円<br>【特徴】<br>案①と比較し少量使用者の負担増を考慮、逓増度は緩和 |

事務局案での料金体系表

1か月分　※括弧書きは現行料金　（円：税抜）

| 基本料金 | | 従量料金 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 口径 | 料金 | 1～20㎥ | 21～40㎥ | 41～60㎥ | 61㎥以上 |
| 13mm | 1,229　（935） | 111（86） | 191（166） | 271（246） | 341（316） |
| 20mm | 1,329　（1,035） | | | | |
| 25mm | 3,551　（2,765） | | | | |
| 30mm | 6,183　（4,815） | 191（166） | | 271（246） | 341（316） |
| 40mm | 12,230　（9,525） | | | | |
| 50mm | 18,175　（14,155） | 271（246） | | | 341（316） |
| 75mm | 45,281　（35,265） | | | | |
| 100mm | 90,875　（70,775） | 341（316） | | | |
| 150mm | 263,901　（205,530） | | | | |

●（参考）近隣他団体との比較　口径20mm・20㎥料金（1か月）